

牛久市は「教育」と「まちづくり」で高評価

牛久市は、日本経済新聞社による「SDGs先進度調査」において、人口5万人以上10万人未満の自治体で第7位となりました。全国で815市区を対象に調査が行われ、658市区が回答した大規模な調査です。牛久市は総合順位でも98位と健闘しています。これは茨城県内自治体としては、31位のつくば市に次ぐものです。

SDGsとは



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsは2015年に国連サミットにおいて採択された、国際社会全体が2030年までに達成すべき目標のことです。地球全体で現代が次世代のために解決しなければならない課題として、企業・自治体・市民が連携し成し遂げるものです。

その内容は、貧困や飢餓の根絶、質の高い教育の実現、女性の社会進出の促進、再生可能エネルギーの利用、経済成長や雇用の確保、気候変動への対策など、**持続可能な社会の実現に向けた17の目標**(右図参照)と、各目標を実現するための**169のターゲット**(達成基準)から構成されています。

SDGs先進度調査において牛久市が評価を受けたポイント

牛久市では、SDGsの17の目標のうち【**4.質の高い教育をみんなに**】の調査指標で①授業以外での学習支援、②学校の空調設置の2項目、【**11.住み続けられるまちづくりを**】の調査指標において、①受動喫煙防止条例等設置、②コミュニティーバス実施、③公共交通の利便性向上の実施、④駅のバリアフリー化の4項目の評価が高かったため上位となりました。



- ①授業以外での学習支援
- ②学校の空調設置



- ①受動喫煙防止条例等設置
- ②コミュニティーバス実施
- ③公共交通の利便性向上の実施
- ④駅のバリアフリー化

次の時代をより豊かで公平な社会とするため、今後もSDGsに則った各種施策を実行してまいります。